

奨励賞



設計担当者

武保 学

三重県建築士会、きりん

戸建住宅／三重県伊賀市

two house 92歳と2歳と暮らす

構造 | 木造

階数 | 地上2階

敷地面積 | 155.19㎡

建築面積 | 68.31㎡

延べ面積 | 111.13㎡

竣工 | 平成30年9月6日



1



環境断面図



配置図兼1階平面図



2



3



4

- 1 外観。祖母の家の玄関先から見る
- 2 1階つなぎの間。敷地内の植栽と遠くの緑が重なり景色をつくる
- 3 広間から東を見る。豊かな景色が多方向に広がる
- 4 2階つなぎの間。高い視点で遠くの景色まで見渡せる

選評

敷地は三重県の伊賀市と名張市の間に位置し、周辺は田畑の中に古い集落が点在する農村地域である。その一角にある92歳の祖母の家の小道をはさんだ向かいに建つ若い建築家自身と家族のための小さな家である。

最も大きな特徴は、2つの約5m角総2階のボリュームが、1、2層共に板張りのテラスを挟んでひとつの切妻屋根でつながっているという構成にある。

1階のテラスは玄関となっていて、左右にある

食堂と居間、水廻りをつなぎ、2階のテラスは寝室と夫の職場をつないでいるが、いずれも風通しがよく、居心地がよい中間領域として機能しており、小さな家に多様な居場所をつくり出し、プライバシーを確保しながらも地域社会や自然とのつながりをつくり出す装置として見事に機能していた。訪れたのは小雨まじりの蒸し暑い日だったが、2階のデッキに座って作者と話していると、時折、前の小道を通る近所の人や子どもたちとあいさつを交わしたり、向かいに

住む祖母の様子をうかがったりするのを微笑ましく拝見しつつ1時間以上も心地よい風を感じながら過ごすことができた。

大都会を離れ、環境のよい場所でゆったりとした時間を過ごす。彼らの生き方はポストコロナ時代の若い世代の価値観を代弁しているように感じられた。地域社会や家族と密接な関係を保ちながら、一方で建築家としてどう活動しているか。若い世代の身を挺したチャレンジに大きな期待を抱かせてくれる作品だった。(横内敏人)